石田 篤史さん

公益財団法人
みんなでつくる財団おかやま
専務理事

プロフィール

氏名：石田　篤史（いしだ　あつし）

■所属：公益財団法人みんなでつくる財団おかやま　専務理事

■経歴：

倉敷市立倉敷第一中学校、岡山県立岡山古城池高等学校卒業。立命館大学 理工学部 土木工学科卒業後、
平成12年岡山県庁入庁。特に公共工事のIT化に関わり、入札情報の公開や、成果物データベースの構築による
情報の有効活用（CALS／EC）をすすめるなど建設マネジメントを中心に取り組む。
プライベートでは、平成18年より社会参加の機会提供を目的に「得意分野」で「期間を決めて」プロジェクト制で
事業を実施するSPOxT（スポット）を設立し、活動する。
平成24年3月に岡山県庁を退職し、平成24年9月28日に一般財団法人みんなでつくる財団おかやまを市民530名の
寄付により設立し、代表理事に就任。（平成26年8月1日に公益認定）
平成28年9月28日に代表理事を退任し、現在専務理事

■専門分野または得意なこと：建設マネジメント、しくみづくり

「公益財団法人みんなでつくる財団おかやま」は、530名の市民から約400万円の寄付を集めて2012年に設立された財団です。市民が生活する中で気づいた課題や地域を良くしたいといった「思い」を「カタチ」にするためのしくみを提供しています。なお、2019年に実施された「第10回日本ファンドレイジング大賞」では財団が西日本豪雨の被災者支援のために立ち上げた災害支援基金「ももたろう基金」が被災地復興のファンドレイジング（資金調達）モデルとして大賞を受賞しました。

価値観

1. やりたいことは早くやる（やらないことを決める）

2. しくみをつくる

3. 決めたことはできるだけ表明する

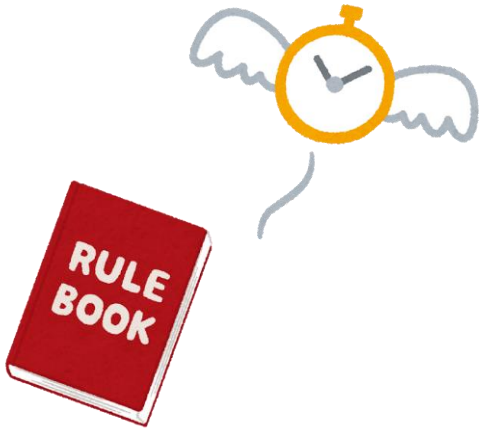
4. 変えられないルールはない

5. うまい酒を飲もう

価値観を表すエピソード

1. やりたいことはすぐにやる（やらないことを決める）

やりたいことがたくさんあって、常に新しいことに挑戦している石田さん



やりたいことを少しでも多く実現できるように自分の中でいくつかのルールを設定し、効率よく時間を使われています。

その中には「やらないことを決める」というルールもあり…

ほかの人でもできることはおまかせして（やらないこととして）、緊急性が高く、ほかにできる人がいないことから着手するようにしているそうです。

西日本豪雨の発生直後に立ち上げた「ももたろう基金」はまさにそのような発想から生まれたものでした。

価値観を表すエピソード

2. しくみをつくる

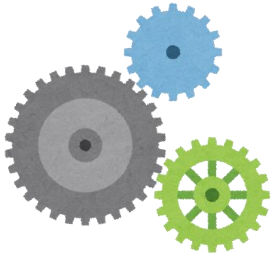
実家が工務店だった石田さんは子どもの頃から「ものづくり」の現場が身近にあったことから…

ゼロから形をつくることやしくみをつくって効率化・汎用化することが自然に身についていったそうです。

そのような経験・スキルを生かして大学生の頃には、自分がサッカーをするためにサッカーサークルをつくっただけでなく、

学内の他チームを巻き込んだリーグ戦まで発足させてしまいました。

母校のサッカーサークルは現在でも存続しており、10周年には記念行事に招待されました。



みんつくや工務店もしくみ化することで自分がいなくても機能する状態をつくることを目指しています。

ちなみに石田さん自身は60代になったら新規事業を起業したいと考えておられるとのこと。

価値観を表すエピソード

3. 決めたことはできるだけ具体的に表明する

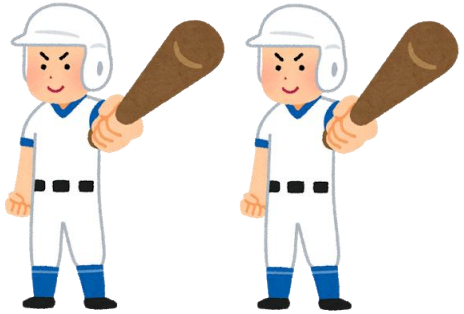
がむしゃらにがんばって目標を達成することは素晴らしいのですが、

石田さんはできるだけ「予告ホームラン」を狙いたいと思っているそうです。

それは、自分で考え、意識的に行動した結果として目標が達成された経験は大きな自信になるからです。

そのため、石田さんはできるだけ近しい人には将来の構想を話すようにしているそうです。

また、言わなければ伝わらない（広がらない）というシンプルな意味もあります。



そのため、市民活動に関わる人たちに対しても「社会を変える」ではなく「なにをどう変えるのか」を具体的に表明することをお勧めしているそうです。

価値観を表すエピソード

4. 変えられないルールはない

石田さんが元公務員であることは比較的有名な話ですが

（不遜なキャラクター（自称）だったそうです）

納得できないことを「納得できない」と主張して上司と衝突することもあったそうです。

とはいえ、職場内で協力してルールをつくったり、変えたりした経験もあり、

「仕事に行きたくないと思った日は2日しかない」と言われるほど楽しい日々を過ごされたらしく…

行政であっても必要なプロセスと時間が経られさえすればルールが変えられるのだから世の中に変えられないルールはないと考えているそうです。

価値観を表すエピソード

5. うまい酒を飲もう

石田さんの座右の銘は「うまい酒を飲もう」だそうです。

「うまい酒」には嫌なことを忘れるための「やけ酒」は含まれておらず

自分自身が前向きな気持ちでなければお酒を飲まないというルールを課しているとのこと。

気持ちを前向きにするための工夫は「カラ元気」（無理やり笑って脳を錯覚させる）や、

車の中で大声を出すなどのストレートなストレス発散のほか、

悩みや不安を直視する、逃げずにとことん考えるという方法も用いられているそうです。

考えることで解決の筋道が見え、前向きな気持ちになれるそうです。皆様もぜひ参考にしてみてください。

今一番関心があること

「工務店の経営」
経営している工務店の将来を考えている。
災害時に浮かぶ公園、組み立て式の住居、職人の育成など
今はできなくても10年後に実現させたいことを考えている。

「達成感の数を増やす」
無意識にガッツポーズが出る瞬間を年3回は経験したい。

次世代のリーダーへ提供できるもの

「井戸端会議」
最近、SPO×T(※)で開始した新しい取り組み。
若者がアクションを起こすきっかけを提供する。
本物の「井戸」の周りでパソコンを使わず話をする。
若者の真剣な挑戦を後押しする場としたい。

※SPO×T:石田さんが主催する任意団体。プロフィールをご参照ください。

次世代のリーダーへのメッセージ

（何か言える立場ではないと前置きされたうえで）
興味があることにできるだけ早いタイミングで挑戦してほしい。
誰もが「学生時代はあっという間だった」「20代はあっという間だった」
「30代もあっという間だった」と言われる。
つまり「あ！あ！あ！」のリズムで40代になってしまうということ。
時間は有限であることを意識して今しかあなたにしかできないことを
見つけ、取り組んでください。